

気になるニュース わたしの視点

スポーツは地域を元気にし、文化は地域を豊かにする。そう思いませんか。多治見、土岐、瑞浪の東濃西部3市と可児市を代表する文化は美濃陶芸です。美濃はほかの産地と異なり、大昔この地にあった東海湖に堆積した良質な白い粘土が取れるという原料に恵まれました。このため釉薬との組み合わせにより多様な色を描け、花を開いた桃山陶から400余年、多くの陶芸家による多彩な作品が誕生し、近年では荒川豊蔵氏をはじめ、5人の人間国宝を輩出してきました。

この地に1963年に設立されたのが「美濃陶芸協会」で、今年で創立60周年を迎え、先月の記念式典をはじめ、協会の作品を展示する陶芸展、歴代会長が登壇した講演会、子どもたちの陶芸体験などを催しています。

先日私は、陶芸家の方々と懇談の場で、地方の陶芸協



東濃信用金庫相談役 市原好二氏

美濃陶芸協会 創立60周年

いちはら・こうじ 1954年、多治見市生まれ。名古屋大学卒業。日本銀行函館支店長、同京都支店長を経て、2009年6月、東濃信用金庫理事長に就任。同金庫会長を経て23年6月から相談役。趣味は温泉、美食探訪。さいたま市在住。

会で、茶碗のような伝統工芸系と立体造形作品もある日展系の作家が一緒になって活動している協会は珍しいこと、新人作家にとって、無形文化財指定を受けているような先輩から、研究会で作品の厳し

い出しました。美濃陶芸協会の会員数は現在53人とピークに比べれば半減です。ベテラン作家の方々には、研究会活性化に再び力を注ぎ、挑戦意欲の高い多様

い批評を受けることが大変刺激になってきたことを知りました。以前日銀京都支店時代に、ベンチャーの父と呼ばれた堀場製作所創業者の堀場雅夫氏が、若手起業家に辛口指導されたことが、京都ベンチャー育成に寄与したことを思い

美濃陶芸協会の創立60周年を祝う関係者
＝多治見市新町、市産業文化センター

美濃陶芸協会創立60周年記念式典

多治見市「意欲的な作品を追求」

美濃陶芸協会の創立60周年記念式典が10日、多治見市新町の市産業文化センターで開かれた。安藤工芸院長は「会員が己を高め、未来に向けた意欲的な作品を追求することで、個々の精神を高め、次世代へ受け継ぐという使命を果たしていきたいと思います」と誓った。協会は1963年に発足し、現在の会員数は53人。式典には会員や賛助会員、行政、各種団体から172人が出席した。式典では協会の事業に多大な支援をしてきたとして東濃信用金庫、第52回JA共済入賞者、10月11日付2面より

創造性や先進性豊かな地域

な志向の陶芸家の入会と育成を促していただきたいものです。

また、多治見には「陶磁器意匠研究所」があり、全国から陶磁器デザイナーや陶芸家を目指す若者が集まります。さらに陶磁器・タイルの産業界では、「セラミックバレー協議会」があり美濃焼全体の振興に努める前向きな経営者がいます。美濃陶芸協会には、

意匠研究所や産業界との連携を強めることにより、時代が求める創造性や先進性を共に高めてもらいたいものです。こうした共創活動によりこの地の魅力が高まり、他地域や海外からも人を惹きつける豊かな地域になることを期待しています。(引用記事は25日付電子版最終面に掲載)



電子版利用の
会員の登録は
このQRコード
から